

科目名	日本語4	単位数	1単位	学期	後期
担当教員	佐々木 香織		実務経験の有無		○
科目区分	カリキュラムマップを表示する	関連するディプロマポリシー			
ナンバリング	X-01-A-1-150010	国際学部B：高度な語学運用力をもって異文化理解の精神を研ぎ澄まし、国際社会において協調的にネットワークを拡張していく意欲と能力を身につけていること			
授業の目的	日本語2に引き続き、レポートや論文をきちんと書けるようになることを目指す。アカデミックな文章を書く技術を高めるほか、ディスカッションやプレゼンテーションの力を伸ばすことを目指す。(日本語が母語でない学生が対象) 国際社会で必要な知識を身に付ける。 予復習に必要な時間数→講義科目は2時間ずつ。語学演習は1単位につき、30分ずつ。				
学修到達目標	学生のレベルが同じでない場合もあるので、各自で立てた目標に向けて、できるだけの支援をします。いずれのレベルでも受講前よりも高い日本語運用力をつけることを目指します。				
実務経験との関連性	国際交流基金シドニー日本人文化センターでの教員研修や講座運営などの経験を活かした日本語指導				

授業計画	
第1回	レベルチェックテスト
第2回	作文を書く。(テーマは学生の興味に合わせて決める)
第3回	誤用分析1：同じ間違いを繰り返さないために、なぜまちがうのか、どうしたら防げるのかを考える。前回書いた作文を自分で直してみる。

第4回	作文を書く。(テーマは学生の興味に合わせて決める)
第5回	誤用分析2 ; 前回書いた作文を、お互いに添削し、どう直したらよりよくなるか、提案しあう。
第6回	あらすじのまとめ方1
第7回	あらすじのまとめ方2 ; お互いにあらすじを読みあって、いい点を参考にする。
第8回	論説文の要約1 (日本語3で使うものを使う予定)
第9回	論説文の要約2 (論説に対する自分の意見をまとめる)
第10回	小テスト
第11回	各自で課題を決めて、学術論文の形式にそって論文を書く1
第12回	各自で課題を決めて、学術論文の形式にそって論文を書く2 章立てについて考える。
第13回	各自で課題を決めて、学術論文の形式にそって論文を書く3 引用や要約引用のしかたを練習する。

第14回	各自で課題を決めて、学術論文の形式にそって論文を書く4 形式を整えて完成させる。
第15回	論文の発表：お互いに自分の論文を紹介しあい、アドバイスする。
第16回	期末レポート提出

授業時間外の学習	
【予習】時間・内容	予習2時間程度。わからない意味の言葉を調べたり、関連するテーマの文献を読んでおく。
【復習】時間・内容	復習2時間程度。授業でわからなかった点を質問したり、自分でしらべたりする。関連する文献を読んだり、復習問題を解いたりする。

成績評価	
評価基準・方法	評価の目安：定期試験40%、授業内レポート30%、授業態度30% レポートは添削後返却します。、テストは希望があれば、採点后解説を加えて返却します。
フィードバック方法	学生の希望によって、日本語能力試験の勉強や、各自の専門に関する日本語の指導を行います。 積極的に要望を出してください。

アクティブラーニング	
実施の有無	○
実施内容	ディスカッション、ディベート／グループワーク／プレゼンテーション／実習、実技、実験、フィールドワーク
教科書/参考書	特になし（参加学生と相談して決めます。）
受講上の留意点等	授業に参加するだけでなく、事前に予習が必要です。たくさん書いたり読んだり話したりします。欠席しないようにしてください。
JABEE	